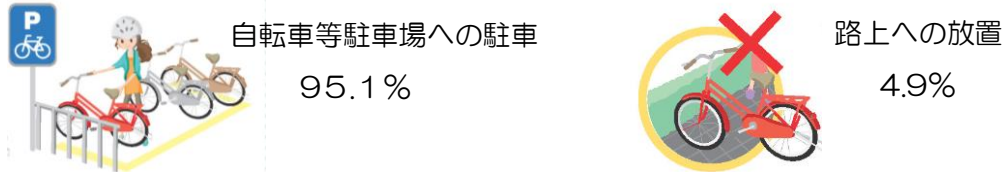


「駅前放置自転車等の現況と対策—平成28年度調査—」について  
— 調査結果の概要 —

1 駅周辺における自転車等の放置状況 【図-1】参照

都内の駅周辺（駅から概ね半径500m以内の区域）における自転車の乗入台数（放置台数と自転車等駐車場の駐車台数の合計）は641,250台、原付及び自二を含めた乗入台数は663,021台でした。また、自転車の乗入台数のうち自転車等駐車場への駐車台数（実収容台数）は、**609,753台(95.1%)**で、残りの**31,497台(4.9%)**が路上などに放置されていました。



(1) 自転車、原動機付自転車及び自動二輪車の放置台数

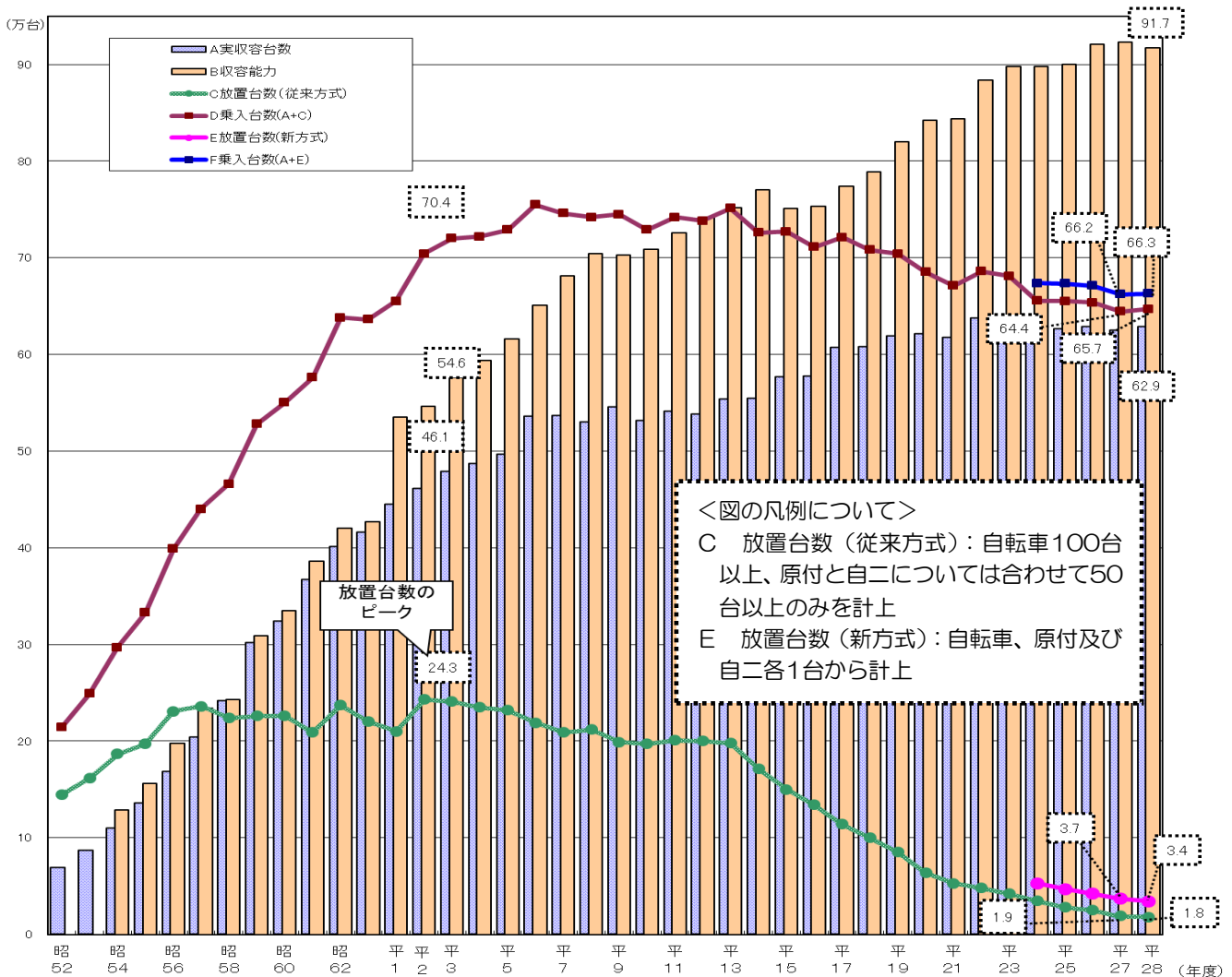
自転車、原付及び自二の放置台数は、**34,247台**（前年度比 **2,757台減少**）でした。

うち、自転車の放置台数は、**31,497台**（前年度比 **2,333台減少**）でした。

(2) 自転車の放置率（乗入台数に占める放置台数の割合）・・・区部 7.0%、市部 1.3%、町村部 1.7%

自転車の放置率が高い区市は、①千代田区（63.1%）、②中央区（46.6%）、③文京区（32.4%）の順でした。

【図-1】 放置台数・実収容台数・収容能力・乗入台数推移



※ 昭和52年から隔年で内閣府（旧総理府）が全国調査を実施。全国調査が実施されない年は都が単独で調査を実施。

## 2 放置台数が多い駅と乗入台数が多い駅

### (1) 放置台数が多い駅

図-2参照

### (2) 乗入台数が多い駅

図-3参照

【図-2】 放置台数が多い駅の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1位	秋葉原 872台	赤羽 645台	赤羽 491台 (-154台)
2位	新宿 677台	秋葉原 597台	渋谷 475台 (+332台)
3位	赤羽 663台	新宿 572台	錦糸町 437台 (-107台)
4位	錦糸町 597台	錦糸町 544台	新宿 421台 (-151台)
5位	浅草(TX) 514台	東京 461台	恵比寿 391台 (+278台)

【図-3】 乗入台数が多い駅の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1位	三鷹 11,925台	三鷹 12,968台	三鷹 12,886台 (-82台)
2位	吉祥寺 10,998台	吉祥寺 10,508台	町田 10,505台 (+9台)
3位	蒲田 10,770台	町田 10,496台	吉祥寺 10,145台 (-363台)
4位	町田 9,774台	蒲田 10,408台	蒲田 9,696台 (-712台)
5位	荻窪 8,693台	荻窪 8,747台	新小岩 9,661台 (+2,066台)

## 3 放置自転車等の減少へ向けた主な対策

良好な交通環境を整備するとともに、街の美観を確保するため、都、区市町村、事業者等が連携しながら放置自転車対策に取り組んでまいりました。その結果、放置自転車等の台数は過去最少となりました。

### (1) 社会全体で放置自転車を削減する体制の強化

都内の駅前放置自転車の約35%を占める都心6区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区）と駅前放置自転車対策に係る協議会を平成26年度に設置し、社会全体で放置自転車を削減するため、平成28年度も引き続き、都と6区が連携して事業者へ働きかけるほか、各区のノウハウ・情報を共有化し、自転車駐車場稼働率向上、放置自転車の撤去強化・効率化等を図りました。

### (2) 自転車等駐車場の設置等

駅周辺における適地の確保が困難な中、自転車等駐車場の設置及び自転車等駐車場への誘導等が進められました。平成27年度における区市町村の投資的経費（自転車等駐車場の建設、増・改築等に要する経費）は、53.6億円（前年度比約14億円減少）でした。

### (3) 放置自転車等の整理・撤去等

放置自転車等の整理・撤去をはじめ、保管、持ち主への返還、処分等が行われました。

平成27年度における区市町村の消費的経費（放置自転車の撤去等に要する経費）は、137.2億円（前年度比約4.1億円増加）でした。

### (4) 放置防止に向けた啓発

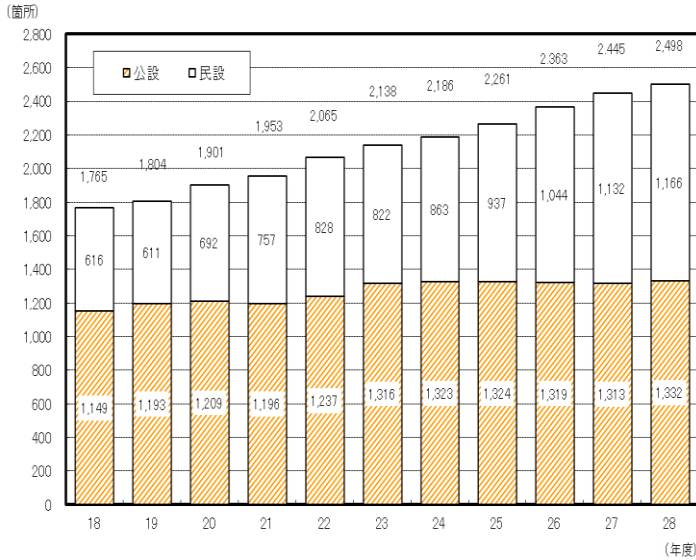
平成28年10月の「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」では、都内各駅で自転車の放置防止を呼びかける広報活動、放置自転車等の撤去活動を実施するほか、自転車の放置防止に係る取組を一層推進するため、ウェブ広告やデジタルサイネージなど幅広く広報活動を展開しました。

#### 4 自転車等駐車場の設置状況 【図-4、5】参照

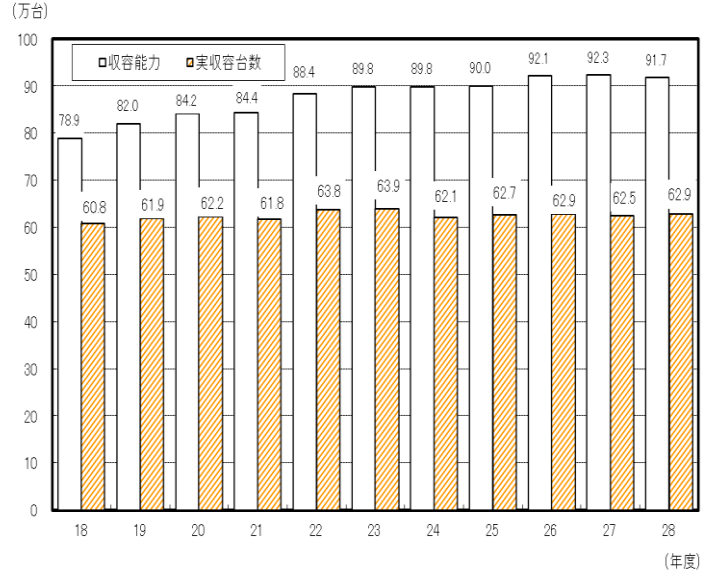
- 平成 28 年 8 月末日現在、駅周辺の自転車等駐車場は※**2,498 箇所**（前年度比 **53 箇所増加**）
- 収容能力は **917,394 台**（前年度比 **5,358 台減少**）でした。そのうち公設は **1,332 箇所**（前年度比 **19 箇所増加**）、民設は **1,166 箇所**（前年度比 **34 箇所増加**）であり、近年は鉄道事業者をはじめとした民間事業者による自転車等駐車場設置が増加しています。
- 収容台数は、**628,774 台**（前年度比 **3,476 台増加**）でした。

※ 不特定多数の者が利用可能なもののみ（来客用駐車場等は、特定の者のみ利用可能であるため調査対象外）

【図-4】 設置者別自転車等駐車場の推移



【図-5】 収容能力及び実収容台数の推移

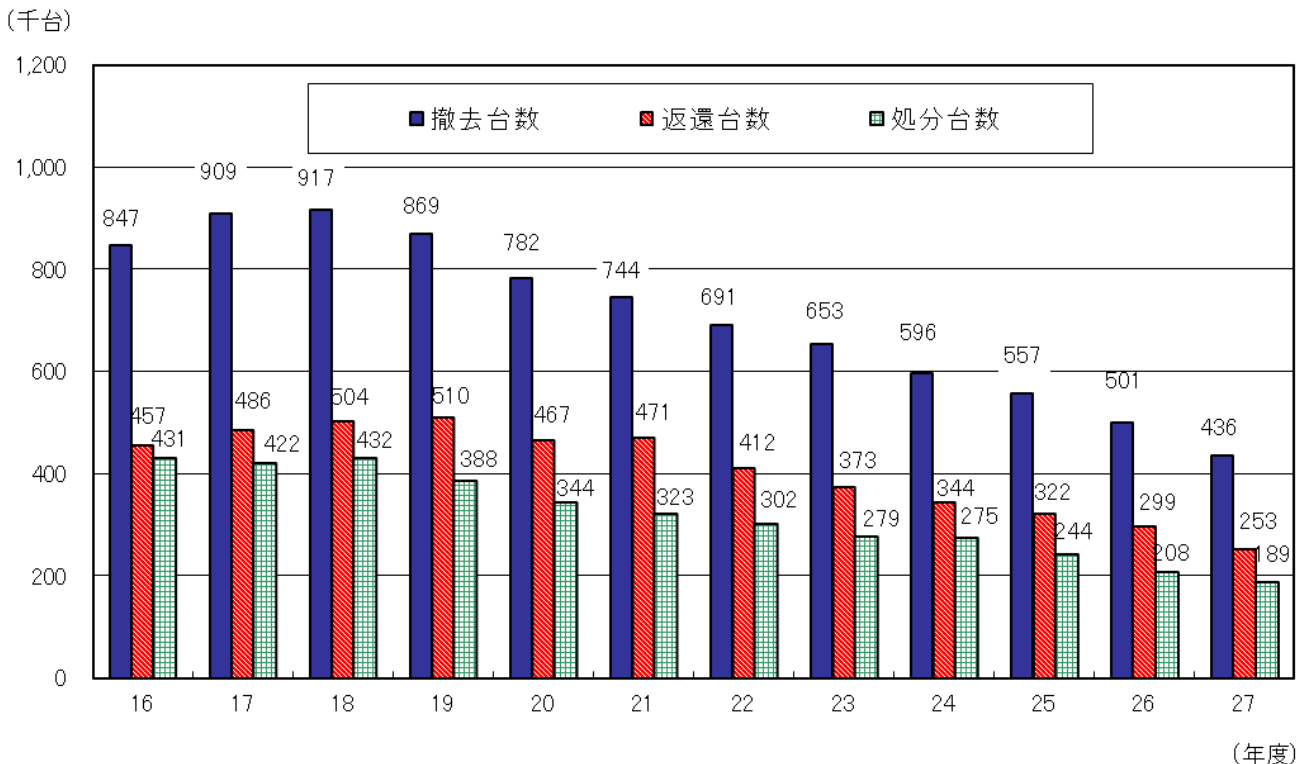


#### 5 平成 27 年度における放置自転車等の撤去、処分等の状況 【図-6、7】参照

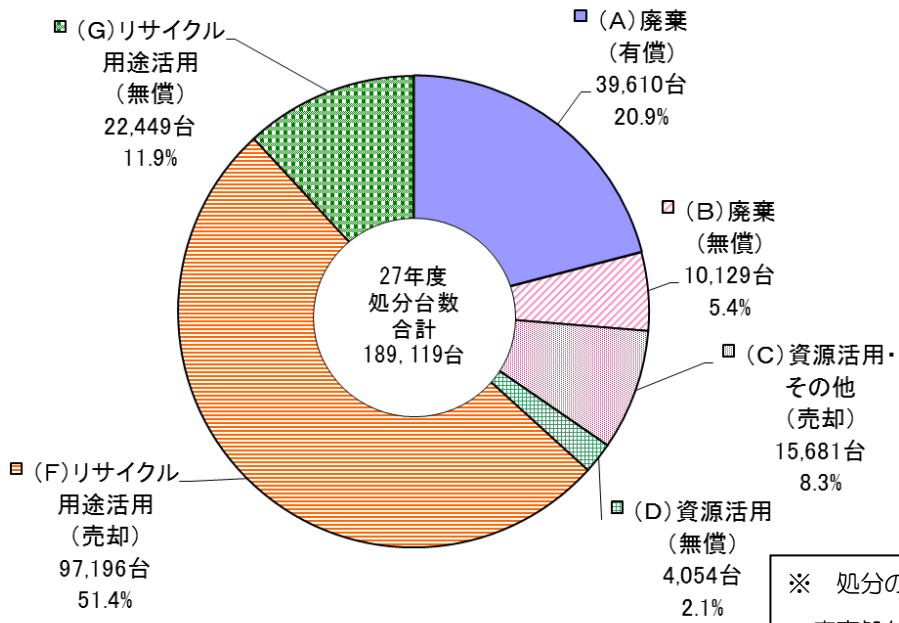
- 平成 27 年度に区市町村が撤去した放置自転車等：**435,561 台**（前年度比 **65,340 台減少**）
- 平成 27 年度に持ち主に返還された台数：**253,326 台**（前年度比 **45,417 台減少**）
- 平成 27 年度に区市町村が処分した台数：**189,119 台**（前年度比 **19,202 台減少**）

※ 返還台数、処分台数には、平成 26 年度中に撤去されたものを含まず。

【図-6】 放置自転車等の撤去・返還・処分台数の推移



【図-7】 撤去自転車及び原動機付自転車の処分内訳



※ 処分の内訳は、

- ・ 廃棄処分 (A+B) : 49,739 台 (26.3%)
- ・ 鉄くずとして資源活用 (C+D) : 19,735 台 (10.4%)
- ・ リサイクル用途 (F+G) : 119,645 台 (63.3%)